

令和6年度 シラバス

和歌山県立田辺工業高等学校

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
国語	言語文化	3	1	全学科・必修

科目の概要	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。		
学習目標	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
教科書	高等学校標準言語文化（第一学習社）		
副教材等	書いて覚える漢字練習ノート（啓隆社）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価の方法	・年間５回の定期考査 ・ワークシートの内容 ・授業への取り組み状況 ・ノート、ファイルの整理状況 ・漢字テキストへの取り組み状況と休み明けテスト及び小テストの結果		
担当者より (注意事項等)	国語学習の目的は、言語による相互理解をはかり、より良い人間関係を築き、自身を成長させることです。そのためには日頃の学習が欠かせません。したがって家庭学習・読書等を通じて、日頃から論理的思考や共感・想像する力を伸ばすため、訓練を怠らない必要があります。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
小説	○	○		○	○					○
詩			○							
短歌・俳句							○			
古文		○	○					○	○	
漢文					○	○			○	

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
国語	現代の国語	3	2	全学科・必修

科目の概要	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。		
学習目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
教科書	新現代の国語（三省堂）		
副教材等	書いて覚える漢字練習ノート（京都書房）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価の方法	・年間5回の定期考査 ・ワークシートの内容 ・授業への取り組み状況 ・ノート、ファイルの整理状況 ・漢字テキストへの取り組み状況と休み明けテスト及び小テストの結果		
担当者より (注意事項等)	国語学習の目的は、言語による相互理解をはかり、より良い人間関係を築き、自身を成長させることです。そのためには日頃の学習が欠かせません。したがって家庭学習・読書等を通じて、日頃から論理的思考や共感・想像する力を伸ばすため、訓練を怠らない必要があります。		

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
国語	文学国語	3	3	全学科

科目の概要	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。		
学習目標	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
教科書	高等学校 標準文学国語(第一学習社)		
副教材等	三訂版 国語の常識 PLUSプラス (明治書院)		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもっている。
評価の方法	・年間5回の定期考査 ・ワークシートの内容 ・授業への取り組み状況 ・ノート、ファイルの整理状況 ・漢字テキストへの取り組み状況と休み明けテスト及び小テストの結果		
担当者より (注意事項等)	国語学習の目的は、言語による相互理解をはかり、より良い人間関係を築き、自身を成長させることです。そのためには日頃の学習が欠かせません。したがって家庭学習・読書等を通じて、日頃から論理的思考や共感・想像する力を伸ばすため、訓練を怠らない必要があります。		

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間授業計画

[illegible]

◎年間授業計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
公民	公共	2	1	全学科・必履修

科目の概要	現代の社会のあり方や諸課題について、時事的要素も交えつつ学ぶ。		
学習目標	1 現代の諸課題を主体的に解決する態度を身につける。 2 事実を基に多面的、多角的に考察し公正に判断する力を身につける。 3 自分自身の在り方、生き方について考える力の基礎を身につける。		
教科書	公共（実教出版）		
副教材等	自主作成プリント・標準高等地図（帝国書院）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	公共において基本的語句や社会問題などを理解し、日本と世界との結びつきを理解できる力を身につける。	授業時に積極的に問題解決を図ることができるか。自分の考えを明確に他者に伝えることができるか。	公共において興味関心を持ち、主体的に調べ学習等に取り組める力を身につける。
評価の方法	下記の1～4の項目をもとに総合的に判断して各学期の成績を判断する 1、授業への取り組み 公共への関心等で判断する 2、ノートへの記載内容 授業内容を適切にまとめられているかを評価する 3、レポート作成 公共に関する事柄がまとめられているかを評価する 4、定期テスト・小テスト 学習内容に合わせて出題する		
担当者より (注意事項等)	現在起こっている様々な出来事について、それはなぜ起こって来たのかを知り、またそれについて自分なりの考えを持つことが大切です。新聞やニュースなどを活用し、今の社会の動きについて、積極的に知り、そして考えるように努力してください。		

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
数学	数学Ⅰ	4	1	全学科・必修

科目の概要	数と式、図形と計量、2次関数及び集合と命題等について高等数学の基礎を学習する。		
学習目標	数と式、図形と計量、2次関数及び集合と命題等について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用・表現する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、主体的に学ぶ態度を身につける。また、中学までの既習事項の復習を行い、基礎学力の定着を図る。		
教科書	新編 数学 I (数研出版)		
副教材等	Study・Up ノート 数学 I (数研出版)、プリント教材、スタディサプリ (リクルート)		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけ、的確に問題を解決する。	事象を論理的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	方程式と不等式・2次関数及び図形と計量に関心を持ち、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
評価の方法	・年間5回の定期考査 ・授業中の取り組みや発言および小テスト ・課題等の取り組み ・ノートの整理状況		
担当者より (注意事項等)	・上記の評価の観点、評価の方法により成績は総合的に評価します。 ・ノートの整理は、板書をそのまま写すのではなく自分なりにまとめるように。 ・授業中は問題演習にもしっかりと取り組むように。 ・提出物や課題は必ず提出するように。		

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
理科	物理基礎	2	1	全学科・必履修

科目の概要	中学校で学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動などの様々な物理現象やエネルギーへの関心を高め、観察、実験などを通して物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則、物理学の果たす役割を理解し、科学的な見方や考え方を養う科目である。		
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにし、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。		
教科書	啓林館 高等学校 考える物理基礎		
副教材等	啓林館 サンドイダル 物理の基本練習		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての観察、実験などを行うことを通して、物体の運動と様々なエネルギーに関する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	物体の運動と様々なエネルギーを対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究することができる。	物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり、それらの事物・現象に対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとしてすることができる。
評価の方法	下記の①～⑤の項目をもとに、各学期の成績を判断する。 ① 授業への取り組み 物理への関心等で判断する。 ② ノートへの記載内容 授業内容を適切にノート・プリントにまとめられているかを評価する。 ③ 観察や実験での取り組み 予想や考察内容、実験器具の取り扱い方、レポート等から評価する。 ④ 教科書や問題集の問題への取り組み 提出物を手がかりに、各問題への取り組みを評価する。 ⑤ 定期考査や小テスト 学習内容に合わせて問題を出題する。		
担当者より (注意事項等)	予習・復習をして物理現象について関心を持って欲しい。		

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
理科	化学基礎	2	2	全学科

科目の概要	自然の事物や現象、また実験を通して、自然における化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、自然に対して科学的に考察する態度・能力を養う。		
学習目標	理論的にさまざまな物質の構造（原子・分子・イオン）を考える。 さまざまな物質の変化を通して化学の基本的な原理・法則を理解する。 科学的に探究する態度と能力を身につける。		
教科書	数研 新編 化学基礎		
副教材等	数研 フォローアップドリル化学基礎①・②		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	化学と物質についての実験などを通して、化学現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学現象について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	化学現象に関する事物・現象について主体的に関り、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価の方法	下記の①～⑤の項目をもとに、各学期の成績を判断する。 ① 授業への取り組み 化学への関心等で判断する。 ② ノートへの記載内容 授業内容を適切にノート・プリントにまとめられているかを評価する。 ③ 観察や実験での取り組み 予想や考察内容、実験器具の取り扱い方、レポート等から評価する。 ④ 教科書や問題集の問題への取り組み 提出物が手がかりに、各問題への取り組みを評価する。 ⑤ 定期考査や小テスト 学習内容に合わせて問題を出題する。		
担当者より (注意事項等)	予習・復習をして化学現象について関心を持って欲しい。		

◎年間學習計畫

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
理科	科学と人間生活	2	3	全学科・必履修

科目の概要	既習の物理基礎と化学基礎との関連を図りながら、さらに進んだ科学的な方法で自然の事物・現象を取り扱う。観察・実験などを通して、科学的に探究する能力を身につけ、科学全般にわたる基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育てる科目である。		
学習目標	自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを、見通しをもって行うことなどを通して理解し、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。		
教科書	第一学習社 高等学校 科学と人間生活		
副教材等	第一学習社 ネオパルノート 高等学校 科学と人間生活		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。	自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。
評価の方法	下記の①～⑤の項目をもとに、各学期の成績を判断する。 ① 授業への取り組み 科学への関心等で判断する。 ② ノートへの記載内容 授業内容を適切にノート・プリントにまとめられているかを評価する。 ③ 観察や実験での取り組み 予想や考察内容、実験器具の取り扱い方、レポート等から評価する。 ④ 教科書や問題集の問題への取り組み 提出物を手がかりに、各問題への取り組みを評価する。 ⑤ 定期考査や小テスト 学習内容に合わせて問題を出題する。		
担当者より (注意事項等)	予習・復習をして身近な科学現象について関心を持って欲しい。		

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
保健体育	体育	3	1	全学科・必修

科目の概要	各スポーツ種目の特性を自ら進んで実践出来るようにする。		
学習目標	- 健康・安全を確保して、運動の楽しさを味わい、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を高める - 運動の実践を通じて体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を身につける。		
教科書	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
副教材等	DVD		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	体の動きはいろいろな力の影響を受けること、物理学の原理を用いて体を効果的にコントロールできることについて、基礎的な事項を理解し、技術的に表現できている。	体の動きはいろいろな力の影響を受けること、物理学の原理を用いて体を効果的にコントロールできることについて総合的に考え、判断し、それらを表している。	運動に関する基礎理論、運動活動の進め方、目的に応じたさまざまな方法について関心を持ち、自ら進んで学習活動を行い、意欲的に取り組もうとしている。
評価の方法	1. 集団の中でルールを守れている。 2. 技能テストはその種目に応じた回数＋体育理論知識理解テスト 3. 提出物（ノート・レポート・感想文等） 4. 各学習項目の評価規準（各項目の、目標のおおむね満足できる状況） ・学習内容について関心を持ち、自らの学習を調整し、学ぶ意思を持って取り組んでいる。（主体的に学習に取り組む態度） ・学習内容に関する課題の解決をめざして総合的に考え、それらについて説明している。（思考・判断・表現） ・学習内容について理解したことを発言したり記述したり技術的に表現している。（知識・技能）		
担当者より（注意事項等）	健康体力の保持増進を実践出来るような態度と基本的能力を積極的に身につけて欲しい。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
体づくり運動	○	○							○	○
バレーボール		○	○	○	○					
器械運動		○	○	○	○					
柔道		○	○	○	○	○	○			
ソフトテニス		○	○	○	○	○	○			
サッカー						○	○	○		
バドミントン						○	○	○		
陸上競技（持久走）								○	○	○
なわとび								○	○	○
体育理論	○		○		○		○		○	

教科	科目	单位数	学年	学科・選択等
保健体育	保健	1	1	全学科・必履修

科目の概要	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を身につける。		
学習目標	健康自体のとらえ方や健康のために個人や社会に求められることが変化していることを知り、生活習慣病や薬物乱用、精神疾患など健康にかかわる問題や新しい時代の健康の考え方などについて学ぶ。		
教科書	現代高等保健体育(大修館)		
副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店)、DVD、パワーポイント		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	健康に関わる問題について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、課題の解決に向けて活動や発表ができています。	健康に関わる問題について、課題の解決をめざして総合的に考え、判断し、それらを表しています。	健康に関わる問題について、関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。
評価の方法	1. 集団の中でルールを守れている。 2. 定期考査は3回＋αテスト 3. 提出物(ノート・レポート・感想文等) 4. 各学習項目の評価規準(各項目の、目標のおおむね満足できる状況) ・学習内容について関心を持ち、自らの学習を調整し、学ぶ意思を持って取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度) ・学習内容に関する課題の解決をめざして総合的に考え、それらについて説明している。(思考・判断・表現) ・学習内容について理解したことを発言したり記述したりしている。(知識・技能)		
担当者より(注意事項等)	健康体力の保持増進を実践出来るような態度と基本的知識を積極的に身につけて欲しい。		

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
保健体育	体育	2	2	全学科・必修

科目の概要	各スポーツ種目の特性を自ら進んで実践出来るようにする。		
学習目標	- 健康・安全を確保して、運動の楽しさを味わい、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を高める。 - 運動の実践を通じて体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を身につける。		
教科書	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
副教材等	DVD		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	体の動きはいろいろな力の影響を受けること、物理学の原理を用いて体を効果的にコントロールできることについて、基礎的な事項を理解し、技術的に表現できている。	体の動きはいろいろな力の影響を受けること、物理学の原理を用いて体を効果的にコントロールできることについて総合的に考え、判断し、それらを表している。	運動に関する基礎理論、運動活動の進め方、目的に応じたさまざまな方法について関心を持ち、自ら進んで学習活動を行い、意欲的に取り組もうとしている。
評価の方法	1. 集団の中でルールを守れている。 2. 技能テストはその種目に応じた回数＋体育理論知識理解テスト 3. 提出物（ノート・レポート・感想文等） 4. 各学習項目の評価規準（各項目の、目標のおおむね満足できる状況） ・学習内容について関心を持ち、自らの学習を調整し、学ぶ意思を持って取り組んでいる。（主体的に学習に取り組む態度） ・学習内容に関する課題の解決をめざして総合的に考え、それらについて説明している。（思考・判断・表現） ・学習内容について理解したことを発言したり記述したり技術的に表現している。（知識・技能）		
担当者より（注意事項等）	健康体力の保持増進を実践出来るような態度と基本的能力を積極的に身につけて欲しい。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
体づくり運動	○	○							○	○
バレーボール		○	○	○						
バスケットボール			○	○						
ソフトテニス			○	○						
サッカー						○	○	○		
ソフトボール						○	○	○		
器械運動					○	○				
陸上競技（三段跳・ハードル走）					○	○				
陸上競技（持久走）								○	○	○
卓球									○	○
体育理論	○		○		○		○		○	

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
保健体育	保健	1	2	全学科・必履修

科目の概要	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を身につける。		
学習目標	思春期から中高年期までに会合うさまざまな健康問題について学ぶとともに、労働と健康との関係や、働く人々の健康が保持増進されるしくみなどについて学ぶ。		
教科書	現代高等保健体育(大修館)		
副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店)、DVD、パワーポイント		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	さまざまな健康問題について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、課題の解決に向けて活動や発表ができている。	さまざまな健康問題について、課題の解決をめざして総合的に考え、判断し、それらを表している。	さまざまな健康問題について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。
評価の方法	1. 集団の中でルールを守れている。 2. 定期考査は3回＋αテスト 3. 提出物(ノート・レポート・感想文等) 4. 各学習項目の評価規準(各項目の、目標のおおむね満足できる状況) ・学習内容について関心を持ち、自らの学習を調整し、学ぶ意思を持って取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度) ・学習内容に関する課題の解決をめざして総合的に考え、それらについて説明している。(思考・判断・表現) ・学習内容について理解したことを発言したり記述したりしている。(知識・技能)		
担当者より(注意事項等)	健康体力の保持増進を実践出来るような態度と基本的知識を積極的に身につけて欲しい。		

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
保健体育	体育	2	3	全学科・必修

科目の概要	各スポーツ種目の特性を自ら進んで実践出来るようにする。		
学習目標	- 健康・安全を確保して、運動の楽しさを味わい、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を高める。 - 運動の実践を通じて体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を身につける。		
教科書	ステップアップ高校スポーツ（大修館）		
副教材等	DVD		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	体の動きはいろいろな力の影響を受けること、物理学の原理を用いて体を効果的にコントロールできることについて、基礎的な事項を理解し、技術的に表現できている。	体の動きはいろいろな力の影響を受けること、物理学の原理を用いて体を効果的にコントロールできることについて総合的に考え、判断し、それらを表している。	運動に関する基礎理論、運動活動の進め方、目的に応じたさまざまな方法について関心を持ち、自ら進んで学習活動を行い、意欲的に取り組もうとしている。
評価の方法	1. 集団の中でルールを守れている。 2. 技能テストはその種目に応じた回数＋体育理論知識理解テスト 3. 提出物（ノート・レポート・感想文等） 4. 各学習項目の評価規準（各項目の、目標のおおむね満足できる状況） ・学習内容について関心を持ち、自らの学習を調整し、学ぶ意思を持って取り組んでいる。（主体的に学習に取り組む態度） ・学習内容に関する課題の解決をめざして総合的に考え、それらについて説明している。（思考・判断・表現） ・学習内容について理解したことを発言したり記述したり技術的に表現している。（知識・技能）		
担当者より（注意事項等）	健康体力の保持増進を実践出来るような態度と基本的能力を積極的に身につけて欲しい。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
体づくり運動	○									
陸上(複合)	○	○								
ソフトボール			○	○					○	
バレーボール	○	○							○	
卓球			○	○						
ソフトテニス					○	○				
サッカー							○	○	○	
バスケットボール					○	○			○	
バドミントン							○	○		
体育理論	○		○		○		○			

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
芸術	音楽Ⅰ	2	1	全学科・選択・必履修

科目の概要	「音楽Ⅰ」は、中学校音楽科における学習を基礎にして、歌唱、器楽、創作の表現、及び鑑賞についての幅広い活動を展開する。		
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を身につける。		
教科書	MOUSA 1（教育芸術社）		
副教材等	プリント（音楽史・歌詞等）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育んでいる。また、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていくことができる。
評価の方法	観点別に得点化し、総合的に評価します。 授業への取り組み状況、楽器等の片付けや整理等も評価の対象とします。 また、各学期に実施する歌唱テストも評価します。		
担当者より (注意事項等)	音楽の楽しさを知り、豊かな心を育てて下さい。授業を受けるにあたり、理由のない遅刻や欠席、忘れ物などが無いよう注意して下さい。また、授業に不必要なものは持ち込まないようにして下さい。		

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
外国語	英語 コミュニケーションⅠ	3	1	全学科・必履修

科目の概要	中学校で学習した語句や文構造、文法事項などの学習内容を確認したり、整理したりすることを通して、基礎・基本の定着を図るとともに、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を行う。		
学習目標	聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したりする態度を育成する。		
教科書	COMET English Communication I（数研出版）		
副教材等	COMET コメット英単語(数研出版)、COMET コメット英単語学習ノート①(数研出版)、COMET English Communication I ベーシックノート（数研出版）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	語句や文構造、文法事項などについて理解し、それらの言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて目的や場面などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。	実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面などに応じて、相手の意図などを的確に理解したり、自分の考えなどを適切に表現したりしている。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価の方法	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・小テスト（単語、スピーキング、リスニング、ライティング、音読等） ・授業への取り組み状況（ペアやグループワーク、発表等） ・課題等への取り組み状況		
担当者より（注意事項等）	・上記の評価の観点、評価の方法を踏まえ、総合的に評価します。 ・英語のコミュニケーション能力を養うために、基礎・基本を徹底し、反復練習します。 ・自分のことや与えられたテーマについて英語で表現する機会を設けます。間違いを恐れず、チャレンジしてください。 ・辞書や書籍等を用いた調べ学習や発表等の活動にクラスメイトと協力して取り組み、意欲的に学習していきましょう。		

◎年間學習計畫

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
外国語	英語 コミュニケーションⅡ	2	2	全学科

科目の概要	既習事項を確認し、基礎・基本の定着を図るとともに、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を行う。		
学習目標	聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したりする力を育成する。		
教科書	COMET English Communication II（数研出版）		
副教材等	COMET コメット英単語(数研出版)、COMET コメット英単語学習ノート①、②(数研出版)、COMET English Communication II ベーシックノート（数研出版）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	語句や文構造、文法事項などについて理解し、それらの言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて目的や場面などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。	実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面などに応じて、相手の意図などを的確に理解したり、自分の考えなどを適切に表現したりしている。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価の方法	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・小テスト（単語、スピーキング、リスニング、ライティング、音読等） ・授業への取り組み状況（ペアやグループワーク、発表等） ・課題等への取り組み状況		
担当者より（注意事項等）	・上記の評価の観点、評価の方法を踏まえ、総合的に評価します。 ・英語のコミュニケーション能力を養うために、基礎・基本を徹底し、反復練習します。 ・自分のことや与えられたテーマについて英語で表現する機会を設けます。間違いを恐れず、チャレンジしてください。 ・辞書や書籍等を用いた調べ学習や発表等の活動にクラスメイトと協力して取り組み、意欲的に学習していきましょう。		

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
外国語	英語 コミュニケーションⅡ	2	3	全学科

科目の概要	既習事項を確認し、基礎・基本の定着を図るとともに、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を行う。		
学習目標	聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したりする力を育成する。		
教科書	VISTA English CommunicationⅡ（三省堂）		
副教材等	COMET コメット英単語(数研出版)、COMET コメット英単語学習ノート②(数研出版)、VISTA English CommunicationⅡ ワークブック（三省堂）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	語句や文構造、文法事項などについて理解し、それらの言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて目的や場面などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。	実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面などに応じて、相手の意図などを的確に理解したり、自分の考えなどを適切に表現したりしている。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価の方法	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・小テスト（単語、スピーキング、リスニング、ライティング、音読等） ・授業への取り組み状況（ペアやグループワーク、発表等） ・課題等への取り組み状況		
担当者より (注意事項等)	・上記の評価の観点、評価の方法を踏まえ、総合的に評価します。 ・英語のコミュニケーション能力を養うために、基礎・基本を徹底し、反復練習します。 ・自分のことや与えられたテーマについて英語で表現する機会を設けます。間違いを恐れず、チャレンジしてください。 ・辞書や書籍等を用いた調べ学習や発表等の活動にクラスメイトと協力して取り組み、意欲的に学習していきましょう。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
(L5) Mont-Saint-Michel	○	○								
(L6) Smart Agriculture		○	○	○						
(L7) A Martial Art on Tatami					○	○				
(L8) Biologging							○	○	○	

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
家庭	家庭基礎	2	2	全学科・必履修

科目の概要	自分自身の生き方や暮らし方の基本となる家庭全般の知識等に関して学習する。		
学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学友活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。		
教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる 第一学習社		
副教材等	自主作成プリント教材等		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決することができる。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決することができる。
評価の方法	観点別の評価規準をふまえ、総合的に評価する 年間3回の定期考査を実施する 授業に取り組む姿勢や提出物の内容についても評価する		
担当者より (注意事項等)	意欲をもって取り組み、主体的に意見を述べて積極的に参加することで、家庭生活を営む能力を身につける。		

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	工業技術基礎	4	1	機械科・必履修

科目の概要	4つの班に分かれて、各ショップをローテーションします。 (旋盤、鋳造、溶接、手仕上げ)		
学習目標	工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、機械に関連する技術を身に付け、課題を発見し、工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を学ぶ。		
教科書	工業技術基礎（実教出版）		
副教材等	学校で作成した各ショップ別のプリント等		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	工業のもつ社会的な意義や役割及び人と技術との関わりを工業生産と関連付けて理解するとともに、ものづくりにおける様々な状況に対応できる技術を身に付ける。	工業技術に関する課題を見いだし、単に生産性や効率だけを優先するのではなく、工業製品が社会に与える影響に対して責任をもち、科学的な根拠に基づき工業に携わる職業人に求められる倫理観を踏まえ工業技術の進展に対応し解決する力を養うこと。	工業技術に関する広い視野をもつことを目指し、環境への配慮や安全性を優先した工業製品の生産の方法を自ら学ぶ態度や、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うこと。
評価の方法	評価の観点を踏まえ、作品やレポートについてショップ毎に評価する。		
担当者より (注意事項等)	欠席をすると作業の進捗に支障をきたすため休まないこと。 安全、清掃、片付けを徹底すること。		

◎年間学習計画

班	学習内容
旋盤	旋盤各部の名称及び工具の名称・切削条件 バイトの取り付け・製品のチャックへの取り付け ノギス・マイクロメータカラーの読み取り（加工効率向上に伴う計算方法など） 外径切削・端面切削・センター穴あけ加工・突っ切り加工 けがき作業
手仕上げ	文鎮の製作 けがき線の引き方やヤスリがけの方法 φ25の丸棒の平面加工、ネジの切り方、切り出しに伴う計算方法など
鋳造	フランジを使った鋳型の製作 校章楯を使った鋳型の製作 バルブ（ハンドル）を使った鋳型の製作 鋳込み作業、作業効率に関わる計算方法の修得など
溶接	ガス溶接等に用いる可燃性ガス及び酸素の知識について ガス溶接設置の取り付け・取り外しについて ガス溶接・溶断の練習、作業効率向上・把握に伴う計算方法など アーク溶接・溶断の練習

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	工業情報数理	2	1	機械科・必履修

科目の概要	情報技術と数理処理についての学習とコンピュータを使った実技も行います。 Word や Excel 、プログラミングの能力を学びます。		
学習目標	機械における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付け、情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を学ぶ。		
教科書	精選情報技術基礎　（実教出版）		
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、工業に携わる者としてもものづくりにおける様々な状況に対応できる技術を身に付けるようにする	情報技術や事象に着目して、情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を見だし、発信する情報や数理処理などが社会に与える影響に対して責任をもち、科学的な根拠に基づき工業に携わる者として倫理観を踏まえ工業技術の進展に対応し解決する力を養うこと	情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指し、情報、数学、物理及び化学の理論を工業に関する事象の数理処理に活用することなどについて自ら学ぶ態度や、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うこと。
評価の方法	年間5回の定期考査を実施する。 各種提出物、授業に取り組む姿勢、考査得点などにより総合的に評価します。		
担当者より (注意事項等)	あらゆる分野で活用されているコンピュータについて詳しく学習しましょう。 必履修の情報・情報の科学の代替科目である。		

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	実習	5	2	機械科

科目の概要	1 学年での工業技術基礎の技術を応用し、2 時間実習の 4 ショップと 3 時間実習の 4 ショップの計 8 ショップを実施します。8 ショップ合わせて、5 単位の実習です。各ショップでの実習や実験を通して、様々な技術や能力を身につけて下さい。		
学習目標	機械に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付け、機械の技術に関する課題を発見し、技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を学ぶ。		
教科書			
副教材等	学校で作成した各ショップ別のプリント		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	学習活動で身に付けた技術に関わる知識を実際の作業に即して総合的に関連付けて理解するとともに、実際のものづくりの現場で活用することができる技術を身に付けるようにする。	ものづくりの現場に着目して、機械の技術に関する課題を見いだし、単に生産性や効率だけを優先するのではなく、工業製品が社会に与える影響に責任をもち、工業に携わる者として倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養うこと。	機械に関する技術の向上を目指し、実際の作業を通して自ら学ぶ態度や、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うこと。
評価の方法	評価の観点を踏まえ、作品やレポートを参考に各ショップで評価する。		
担当者より (注意事項等)	実習において必要な物を忘れないこと。 欠席や遅刻をすると作業の進捗に支障をきたすため気をつけること。 欠席や遅刻があった場合は、次の実習日までに必ず担当者の指示を仰ぐこと。		

◎年間授業計画

2 時間実習		学習内容
ショップ 1	計測・材料実験	マクロメーターによる精密測定及び精度検査 引っ張り試験・硬さ試験・衝撃試験
ショップ 2	電気	基礎的な電子工作、電気工事
ショップ 3	CAD	CAD による製図
ショップ 4	MC	マシニングセンターによるアルミ製品の加工

3 時間実習		学習内容
ショップ 1	旋盤	3 級旋盤検定の作品を製作
ショップ 2	特殊機械	引張試験用試験片、ストレートエッジの製作 (立&横フライス盤、ならい旋盤、平面研削盤)
ショップ 3	溶接	ガス溶接、溶断の仕方。電気溶接の操作方法
ショップ 4	エンジン	エンジン分解・組立て

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	電気回路	2	2	機械科・選択

科目の概要	基本的な電気現象・電気現象の量的な取り扱い方法・電氣的諸量の相互関係とそれらを式の変形や計算により処理する方法などを学習する。		
学習目標	電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付け、電気回路に関する課題を発見し、電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指し自ら学び、工業の発展に主体的で協働的に取り組む態度を学ぶ。		
教科書	精選電気基礎 新訂版（実教）		
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	電気現象やそれらの量的な取扱い方、電氣的諸量の相互関係とそれらを式の変形や計算により処理する方法などを理解し、ものづくりに実際に活用できる技術を身に付けるようにする。	電気現象の物理的な意味に着目して、電気現象やそれらの量的な取扱い方に関する課題を見いだし、電気技術の利便性のみを注視することなく、社会に与える影響に責任をもち、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応して解決する力を養うこと。	電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指し、電気現象やそれらの量的な取扱い方について自ら学ぶ態度や、情報技術を活用するとともに環境に配慮した工業生産について主体的かつ協働的に取り組む態度を養うこと。
評価の方法	・定期考査を年間 5 回実施する。 ・各種提出物、授業の取り組み状況を得点化し、考査得点と併せて評価する。（評価の観点に基づき、評価を行う）		
担当者より（注意事項等）	・関数電卓を必ず持参してください。 ・ノートは綺麗にとるように心がけてください。 ・機械科目との関連を深め、新たな課題に対して考える力をつけてください。		

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
作品製作・調査・研究・ 実習・資格取得など	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
研究報告書作成・研究発表準備									○	○

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	実習	3	3	機械科

科目の概要	1 学年の工業技術基礎と 2 学年での実習をさらに応用し、4 つのショップをローテーションします。学習活動で身につけた知識を活用し、作業工程や技能を身につけましょう。		
学習目標	機械に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付け、機械の技術に関する課題を発見し、技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を学ぶ。		
教科書			
副教材等	学校で作成したテキスト・プリント等		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	学習活動で身に付けた技術に関わる知識を実際の作業に即して総合的に関連付けて理解するとともに、実際のものづくりの現場で活用することがで きる技術を身に付けるようにする。	ものづくりの現場に着目して、機械の技術に関する課題を見だし、単に生産性や効率だけを優先するのではなく、工業製品が社会に与える影響に責任をもち、工業に携わる者として倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養うこと。	機械に関する技術の向上を目指し、実際の作業を通して自ら学ぶ態度や、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うこと。
評価の方法	・評価の観点を踏まえ、ショップ毎に評価する。		
担当者より (注意事項等)	部品だけを作るのではなく、それを組み立てて一つの製品を作るなど、2 年生の実習の延長上にある実習をします。 欠席をすると、作業の進捗に支障をきたし、共同実習者にも迷惑をかけることが考えられます。休まないこと。		

◎年間学習計画

ショップ名	学習内容	学習内容
ショップ 1	旋盤	旋盤を用いて小型バイスの部品製作
ショップ 2	特殊機械	フライス盤（立・横）・ノコ盤・ラジアルボール盤・卓上ボール盤等を用いて小型バイスの部品製作
ショップ 3	モデリング	CAD による図面制作と 3D モデリングソフトを使って作品を制作
ショップ 4	プログラミング	マイコンボードを用いたラジコンの制御

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	製図	2	3	機械科

科目の概要	1, 2 学年での学習より、製図検定への取得に向けて学習します。全国の製図コンクールの課題図面に取り組むため、設計製図の要素もあります。		
学習目標	機械に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付け、製作図や設計図に関する課題を発見し、機械における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を学ぶ。		
教科書	機械製図（実教出版）		
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	機械に関する製図について日本工業規格（JIS）及び国際標準化機構（ISO）規格を踏まえて理解するとともに、工業の各分野の製図における様々な状況に対応できる技術を身に付けるようにする。	機械に求められる製品などに着目して、製作図や設計図に関する課題を見だし、工業製品が社会に与える影響に対して責任をもち、工業に携わる職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養うこと	機械に関わる技術を活用した部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指し、安全で安心な製品に責任をもって自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うこと
評価の方法	図面作成過程、完成図の出来具合から判断します。 製作図面および提出物については、原則として得点化し、評価します。 製図コンクール入賞者にはプラスの評価を加えます。 機械製図検定の点数も評価する。		
担当者より （注意事項等）	全国製図コンクールの設計製図を意識して図面を書き上げこと。 自分の製図器セットと教科書を必ず持ってくること。 機械製図検定に合格するように頑張りましょう。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1・2年次の復習	○	○								
機械製図検定への事前学習		○	○	○						
全国製図コンクール課題				○	○	○	○	○	○	○

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	電気回路	2	3	機械科・選択

科目の概要	基本的な電気現象・電気現象の量的な取り扱い方法・電気的諸量の相互関係とそれらを式の変形や計算により処理する方法などを学習する。		
学習目標	電気回路について電気的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付け、電気回路に関する課題を発見し、電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指し自ら学び、工業の発展に主体的で協働的に取り組む態度を学ぶ。		
教科書	精選電気回路（実教）		
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	電気現象やそれらの量的な取扱い方、電気的諸量の相互関係とそれらを式の変形や計算により処理する方法などを理解し、ものづくりに実際に活用できる技術を身に付けるようにする。	電気現象の物理的な意味に着目して、電気現象やそれらの量的な取扱い方に関する課題を見いだし、電気技術の利便性のみを注視することなく、社会に与える影響に責任をもち、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応して解決する力を養うこと。	電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指し、電気現象やそれらの量的な取扱い方について自ら学ぶ態度や、情報技術を活用するとともに環境に配慮した工業生産について主体的かつ協働的に取り組む態度を養うこと。
評価の方法	・定期考査を年間5回実施する。 ・各種提出物、授業の取り組み状況を得点化し、考査得点と併せて評価する。（評価の観点に基づき、評価を行う）		
担当者より （注意事項等）	・関数電卓を必ず持参してください。 ・ノートは綺麗にとるように心がけてください。 ・機械科目との関連を深め、新たな課題に対して考える力をつけてください。		

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	工業技術基礎	3	1	電気電子科・必履修

科目の概要	各種機器、測定器の取り扱い方法や活用の仕方を習得する。		
学習目標	1. 工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2. 工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3. 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
教科書	工業技術基礎（実教出版）		
副教材等	電気・電子実習 1（実教出版）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	工業の各分野に関する基礎的な知識と技術を身につけ、工業の発展と環境・資源などとの調和のとれた在り方および現代社会における工業の意義や役割を理解している。	工業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして、広い視野を持ち自ら考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現する能力を身につけている。	工業技術に興味・関心を持ち、その改善向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
評価の方法	レポートの内容を含め、授業での取組をテーマごとに点数化して評価する。		
担当者より （注意事項等）	忘れ物をしないようにすること。 レポート提出日が決められているので、期日を厳守すること。		

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	実習	4	2	電気電子科

科目の概要	実際に実験・実習機器を取り扱い、各種の電気現象や相互作用を理解し、理論式との関連を習得する。		
学習目標	(1) 工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
教科書	作成教材（プリント）等		
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実験実習の内容を理解し、回答することができる。 言語実習では個性のあるプログラムを作成できる。 測定データを的確にまとめて、報告書を書くことができる。	測定において、正しく計器を使い実験することができる。回路を理解し、正しく取付け、接続ができる。プログラムを理解し正しい命令語を使うことができる。	計測実習では、積極的に回路の結線やデータ収集に取り組むことができる。 製作実習では、工具の取扱いが正しくできる。 言語実習では、積極的に課題に取り組むことができる。
評価の方法	レポートの内容を含め、授業での取組をテーマごとに点数化して評価する。		
担当者より（注意事項等）	正しく実習服を着用し、安全第一に努めてください。 実習は、グループによる作業が多いので協力して行います。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
コンピュータ（C言語）	○	○	○	○	○					
シーケンス制御実習	○	○	○	○	○					
直流機の手動制御、無負荷試験・負荷試験	○	○	○	○	○					
電気工事	○	○	○	○	○					
電子工作基礎	○	○	○	○	○					
トランジスタの静特性・周波数特性						○	○	○	○	○
シーケンス制御実習						○	○	○	○	○
単相変圧器の特性試験・三相結線						○	○	○	○	○
交流ブリッジによるRLC測定・直並列共振回路の測定						○	○	○	○	○
電子工作基礎						○	○	○	○	○

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	電気機器	2	2	電気電子科・選択

科目の概要	電気機器である直流機・変圧器の構造および基本特性について学ぶ。		
学習目標	1. 電気機器についてエネルギーの変換を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2. 電気機器に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 3. 電気機器に関わる電気エネルギーを活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
教科書	電気機器（実教出版）		
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実験機械・器具・計測器の機能を正確に理解する。測定データの処理が正しくでき、結果を的確に書き表すことができる。電気機器に関する技能を習得する。	電気回路および電気実習の学習で習得した関連知識を生かし、電気機器について発展的に思考・考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。	各種電気機器の原理・特徴を理解しようとしたか。起電力やトルクなどの諸計算に、意欲的に取り組めたか。各種電気機器の利用技術について関心を持ち、正しく理解する。
評価の方法	定期考査（5回） 小テスト、テスト直し、ノート提出、レポート等 上記の観点から総合的に判断し評価します。		
担当者より（注意事項等）	電気を学習するにあたり電気機器は応用の分野になるので、数学と電気回路をしつかり学習しておくことが大切になります。		

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	電子回路	2	2	電気電子科・選択

科目の概要	電子回路の基礎を学習する。		
学習目標	(1) 電子回路について機能や特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 電子回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 電子回路を設計・製作する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
教科書	電子回路（実教出版）		
副教材等	学校での作成教材（プリント）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	電子回路の働きや特徴を理解し、その上で電子回路を活用する知識がある。 電子回路において、必要な計算をし、必要な図などを描くことができる。	電子回路の内容について回路の動作等を推論または考察して表現できる。	ダイオード・トランジスタについて増幅の仕組みなど電子回路の内容について興味を持ち、意欲的な態度で学習に取り組める。
評価の方法	定期テストの点数に加え、提出物への取り組み、丁寧さ、授業中の学習への取り組み状況、および上記評価の観点から総合的に判断し評価する。		
担当者より （注意事項等）	忘れ物をしないようにすること。 電卓持参のこと。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
電子回路素子	○	○	○	○						
増幅回路の基礎					○	○	○	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	電力技術	2	2	電気電子科・選択

科目の概要	電気エネルギーを供給する電力施設・設備の取り扱い、電力運用の基礎的な内容を理解する。		
学習目標	1. 電気エネルギーを供給する発電、送電、配電などの電力の供給技術と、これらに使用されている電力施設・設備の取り扱い、電力運用の基礎的な技術を理解させ、実際に活用する能力を育てる。 2. エネルギー資源の有効利用や省エネルギーの観点から、各種の新しい発電方式の仕組みや、効率の向上などについても理解を深めさせる。 3. 電力を効率的に利用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
教科書	電力技術 1（実教出版）		
副教材等	学校印刷教材など		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	水力・火力・原子力・新しい発電方式について特徴を正しく理解し、説明できる。	電気回路、電気実習で習得した関連知識や技能を生かし、電力技術について発展的に思考・考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。	電気エネルギーの供給に興味をもち、積極的に学習に取り組むとともに、技術者としての態度を身につける。
評価の方法	定期テスト・演習・ノート・取り組み姿勢など上記の観点から総合的に判断し評価します。		
担当者より (注意事項等)	公式や回路を覚えるだけではなく、自分の身の回りで電気がどのように使われているのかを考え、自分で考え理解する事が大切です。		

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	課題研究	3	3	電気電子科・必履修

科目の概要	横断的・探究的な学習を通して、自ら課題を見付け主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。		
学習目標	(1) 工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 (2) 工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。 (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
教科書	学校での作成教材（プリント）		
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	課題解決に至る知識や技能を身につけ、報告書や発表会で適切に報告することができる。	自分の役割を認識し、これまでの経験を活かし、創意工夫を凝らして活動することができる。また、発表会で積極的に報告することができる。	課題解決のため、課題を認識し、課題解決する過程や、積極的に解決することができる。
評価の方法	評価の観点で示した項目をもとに3観点で総合的に評価します。 朝の学習において、使用教材に応じて行われた試験結果等も評価対象に含める。		
担当者より (注意事項等)	各班で相談して課題を決定し、1年間を通して研究を深めます。他者と協同して研究を進めることで、望ましい人間関係の形成を図ります。最後に1年間の様子をまとめ、発表原稿を作り、報告集会で発表します。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
製作・調査・研究・実験・実習 ・デジタル制御 ・プロジェクトマッピング ・太陽光発電、風力発電 ・照明器具の製作 ・ラジコン ・電気工事 ・おもちゃ病院 等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
研究報告書作成、研究発表準備								○	○	

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	実習	4	3	電気電子科

科目の概要	実際に実験・実習機器を取り扱い、各種の電気現象や相互作用を理解し、理論式との関連を習得する。		
学習目標	(1) 工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 (3) 工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
教科書			
副教材等	学校での作成教材（プリント）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	電気・計測の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、工業の発展と環境の調和の取れた在り方や現代社会における制御の意義や役割を理解することができる。	電気・計測の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ安全に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現することができる。	電気・計測に関する諸問題の解決を目指して広い視野を持ち自ら考え、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につける。
評価の方法	評価はレポートを含め、テーマごとに得点化し評価する。		
担当者より (注意事項等)	忘れ物をしないようにすること。 レポート提出日が決められているので、期日を厳守すること。 実習服をきちんと着用すること。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
三相誘導機の特性試験	○	○	○	○	○					
高圧放電・絶縁の特性試験	○	○	○	○	○					
電子工作基礎Ⅰ、Ⅱ	○	○	○	○	○					
電気工事	○	○	○	○	○					
オペアンプの増幅特性	○	○	○	○	○					
コンピュータⅠ、Ⅱ	○	○	○	○	○					
PLCによる制御Ⅰ、Ⅱ	○	○	○	○	○					
同期機の特性試験						○	○	○	○	
受電設備の実習（過電流継電器の試験方法）						○	○	○	○	
電子工作基礎Ⅲ、Ⅳ						○	○	○	○	
LC発振回路の特性						○	○	○	○	
CR発振回路の特性						○	○	○	○	
コンピュータⅢ						○	○	○	○	
レーダーと気象衛星						○	○	○	○	
PCによる制御Ⅰ、Ⅱ						○	○	○	○	

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	電気機器	2	3	電気電子科・選択

科目の概要	電気機器での交流機、パワーエレクトロニクスについて学ぶ。		
学習目標	1. 電気機器についてエネルギーの変換を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2. 電気機器に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 3. 電気機器に関わる電気エネルギーを活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
教科書	電気機器（実教）		
副教材等	プリント		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	各種電気機器の原理・特徴を理解しようとしたか。公式を活用して、誘導機や同期機などの計算問題を解くことができるか。	問題や課題について自らが考え、判断し解決できるか。 学習内容を問題や課題を解くために活用できているか。	学習に意欲的に取り組み、内容をきちんとノートにまとめることができるか。
評価の方法	定期テスト5回と観点別評価で総合的に評価する。		
担当者より（注意事項等）	・2年生で学習した電気機器の内容や、計算の基礎となる三角関数やベクトルの復習をしっかりとおくことが大切になります。		

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

科目の概要	電子回路の基礎を学習する。		
学習目標	電子回路に関する基礎的な知識と技術を習得する。 習得した知識と技術を実際に活用できるようにする。		
教科書	電子回路（実教）		
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	電子回路素子や電子回路の構成などの基本的な事項の知識を持ち、動作原理を理解している。また、諸量の数式表現を理解し、それらを計算によって求めることができる。	電気に関する知識と技術を活用し、各種電子回路の動作などについて自ら思考を深め、科学的に表現することができる。	電子回路の動作について意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。また、各種の電子回路について関心をもち、知識を活用する態度を持っている。
評価の方法	定期テストの点数に加え、提出物への取り組み、丁寧さ、授業中の学習への取り組み状況、および上記評価の観点から総合的に判断し評価する。		
担当者より (注意事項等)	2年生の時に学んだ電子回路をもう一度復習しておいてください。 必要に応じて電気基礎の復習も行います。 授業での取り組む意欲・態度・服装など日常の姿勢も重要視します。		

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	工業技術基礎	４	１	情報システム科・必修

科目の概要	プログラミング・電気計測・アプリケーション・電子工作・デジタル回路		
学習目標	工業に関する基礎的な技術を実験や実習によって体験し、各分野における工業技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させ、広い視野と倫理観を養い、工業の発展をはかる意欲的な態度を身につけさせる。		
教科書	工業技術基礎（実教出版）		
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	工業の各分野に関する基礎的な知識と技術を身につけ、現代社会における工業の意義や役割を理解している。 また実際の仕事を適切に処理する技能を身につけている。	工業技術に関する、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現する能力を身につけている。	工業技術に興味・関心を持ち、その改善向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
評価の方法	実習に取り組む姿勢、理解度、レポート等により、総合的に評価します。		
担当者より （注意事項等）	１クラスを５班にわけ、それぞれのテーマをローテーションし、少人数で実技・実習の学習を行う。レポートの提出期限を守ること。		

◎年間学習計画

班	学習内容
プログラミング基礎１	非言語型のプログラミング技術の基礎及び応用
プログラミング基礎２	言語型のプログラミング技術の基礎及び応用
アプリケーション	Word、Excel 等のアプリケーションの基礎演習
工業技術総合	工具の扱い方、設計の方法など工業科全般にまつわる実習
電子工作	PIC マイコン基板の製作と C 言語による制御の基礎実習

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	実習	4	2	情報システム科

科目の概要	Python プログラミングの基礎について学ぶ。 PIC マイコン基板の製作・制御について学ぶ。 LEGO を使用し、コンピュータ制御について学ぶ。 C 言語プログラミングの応用について学ぶ。 VBA プログラミング（マクロ）について学ぶ。		
学習目標	工業の情報に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。情報に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
教科書			
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	工業の各分野に関する基礎的な知識と技術を身につけ、現代社会における工業の意義や役割を理解している。また実際の仕事を適切に処理する技能を身につけている。	工業技術に関する、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現する能力を身につけている。	工業技術に興味・関心を持ち、その改善向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
評価の方法	実習に取り組む姿勢、理解度、レポート等により、総合的に評価します。		
担当者より （注意事項等）	1 クラスを5 班にわけ、それぞれのテーマをローテーションし、少人数で実技・実習の学習を行う。レポートの提出期限を守ること。		

◎年間学習計画

学習内容	学習内容
Python	Python 言語により、オブジェクト指向言語の基礎を学ぶ。
電子工作	PIC マイコン基板を製作し、C 言語のプログラミングで制御する。
制御	LEGO を使用し、コンピュータ制御について学ぶ。
C 言語	C 言語の応用(ファイル操作、関数)について学ぶ。
VBA プログラミング	VBA によるマクロのプログラミングについて学ぶ。

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	課題研究	３	３	情報システム科・必修修

科目の概要	情報システム科で学んだ知識を活用し、課題を解決する力の向上と主体的かつ協働的に取り組む課題を設定し実践的な学習活動を行う。 朝の学習を通じて、基礎学力の向上と進路に向けた学習を行う。		
学習目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。具体的には、課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
教科書			
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	課題解決に関する知識や技能が身につけ、報告書や発表会で課題解決に至る過程について具体的に報告することができる。	自分の役割を認識し活動し、今までの経験を活かして、創意工夫を凝らすことができる。発表会で積極的に報告することができる。	課題解決のため課題を把握し、解決するための知識及び技能を主体的に獲得して、試行錯誤することができる。
評価の方法	評価の観点で示した項目をもとに３観点で総合的に評価します。		
担当者より (注意事項等)	工業高校で興味や関心を持った事柄について個人またはグループで課題を設定します。１年間で個人やグループでの作品の制作、研究をします。１月に研究報告会があります。		

◎年間授業計画

※毎年４月にテーマを設定します。

班	学習内容
マルチメディア	PowerPoint や Premier を使用し、学校紹介動画を作成する。
プログラミング	Arduino を使用し、マイコンカーを製作する。
VR 空間の制作	VR 空間制作ソフトを使用し、各自テーマにそった空間を制作する。
アプリ開発	アプリケーションソフトウェアの企画・開発を行う。
Iot 制御	EPS 開発ボード Wi-Fi モジュールを活用した Iot 制御を行う。

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	実習	４	３	情報システム科

科目の概要	FMSのロボットアームをティーチングボックスを用いて学習する。 HTML言語の基礎について学習する。 Python言語を用いた制御について学習する。（１） アプリケーションソフトによる画像・動画の処理について学習する。 Python言語を用いた制御について学習する。（２）		
学習目標	工業の情報に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、実際の作業を通して情報技術に関する専門知識と技術を習得し、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を身につける。工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
教科書			
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する能力を身につけている。	工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
評価の方法	実習に取り組む姿勢、理解度、レポート等により、総合的に評価します。		
担当者より（注意事項等）	１クラスを５班にわけ、それぞれのテーマをローテーションし、少人数で実技・実習の学習を行う。レポートの提出期限を守ること。		

◎年間授業計画

班	学習内容
FMS	ロボットアームをティーチングボックスを用いて動作させる。
HTML	HTML言語の基礎について学習し、自らHPを作成する。
Python 制御（１）	Python 言語を用いてLED、ステッピングモータ等を制御する。
アプリケーション	画像処理や動画処理について学習する。
Python 制御（２）	Python 言語を用いてドローンの制御を行う。

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	製図	2	3	情報システム科

科目の概要	図面作成の基本を理解し、コンピュータ使用による製図を行う。		
学習目標	製図に関する日本産業規格および工業の各専門分野の製図に関する知識と技術を習得させ、製作図・設計図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を身につける。具体的には、CAD を活用した機械設計製図について取り扱いや、基礎的な図面が作成できるようにする。また、効率的に図面を作成するための応用力及び思考力を習得する。		
教科書	製図（実教出版）		
副教材等	Jw_cad 8 製図入門（株式会社エクスナレッジ）		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	製図に関する基本的な概念や基礎的な知識を理解し、読図・作図の技能を身につけている。二次元CADの特徴を理解し、作図の技能を習得している。	製図に関する事象について、論理的に考え分析し、読図・作図について思考を深め総合的に判断できる。二次元CADの機能などについて考察し、その過程や結果および考え方を的確に表現できる。	製図に関する事象について関心をもち、主体的・協働的に取り組む態度を身につけようとする。また、二次元CADについて関心をもち、意欲的に技術を習得しようと取り組んでいる。
評価の方法	評価の観点で示した項目をもとに3観点で総合的に評価します。		
担当者より (注意事項等)	指導方法については、Jw_cad 操作機能の各種演習問題を演習する。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
製図を学ぶにあたって	○	○	○							
平面図形のかき方		○	○							
二次元CAD			○	○	○	○	○	○	○	○

◎年間学習計画

[illegible]

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
制御プログラム（アセンブリ言語）	○	○	○	○	○					
制御プログラム（C言語）					○	○	○	○		
マイクロコンピュータの組み込み技術								○	○	○

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	ソフトウェア技術	2	3	情報システム科

科目の概要	ソフトウェアの知識やセキュリティ対策技術を学習する（2年次の続き）		
学習目標	見方・考え方を働かせ、コンピュータのソフトウェアの活用や開発に必要な資質・能力を育成する。コンピュータを運用し、活用するために必要となるソフトウェア、オペレーティングシステムやセキュリティに関する技術を習得させ、実際に活用できる能力と態度を育てる。具体的には基礎的な運用と管理、情報に関する基本的な法規や標準化規格の目的と概要、基本的なセキュリティとリスク管理についての知識と技術を習得することを目標とする。		
教科書	ソフトウェア技術（実教出版）		
副教材等			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	セキュリティ技術についてコンピュータシステムを外部からの脅威について理解するとともに、情報セキュリティの基本概念やリスクマネジメントを理解し、実際にセキュリティ対策ソフトウェアを適切に設定し管理できる技術を身につけている。	セキュリティ技術について、コンピュータシステムを安心して利用できる視点で捉え、ソフトウェアの活用ができるように思考・判断し、自分の考えを表現できる。	コンピュータシステムを安心して利用できる状態に着目して、セキュリティ技術に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、セキュリティ技術について自ら学び、情報技術の進展に主体的かつ協働的に取り組もうとする態度を身につけている。
評価の方法	・年間5回の定期考査 ・授業への取り組み状況（主体的に取り組んでいるか。） ・ポートフォリオやノートで学習に対して積極的に取り組んでいるか。		
担当者より（注意事項等）	・上記の評価の観点、評価の方法により総合的に成績評価を行います。		

◎年間学習計画

[illegible]

教科	科目	単位数	学年	学科・選択等
工業	通信技術	2	3	情報システム科・選択

科目の概要	ますます高度化、多様化する社会において、電気通信技術の歴史および電気通信システムの基本構成について知識と理解を深める。		
学習目標	情報通信に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。通信の意義がコミュニケーションである面に配慮し、電気通信術等の体験を通して通信に関する社会的意義やモラルについても学習を行う。		
教科書	通信技術（実教出版）		
副教材等	総合通信実戦問題テキスト、無線工学の基礎・A・B、陸上無線技術士問題集		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	有線、無線、画像通信に関する知識を身につけている。入出力機器に関する基礎知識を身につけている。通信関連法規の概要を理解している。基本的な回路の製作や信号波形の観測などを正しく行う知識と技術を修得している。	通信技術について論理的な考え方ができる。基礎知識を正確に理解し、発展的な考え方ができる。通信に利用されている技術を正確に理解し、発表したり報告書を作成したりできる。	通信に関連する技術に興味・関心をもっている。情報の加工・伝送に関する学習に取り組み、活用する意欲をもっている。
評価の方法	評価は定期テストおよび授業態度で行います。 また、提出物や学習への取り組み状況も総合評価とします。		
担当者より (注意事項等)	発展学習として、最新のトピックスをテーマとした関連事項の探究にインターネット等を用いてレポートを提出します。提出は自由で各学期の素点に加点します。 また、受験は任意ですが、通信に係る国家試験に挑戦してもらいます。		

◎年間学習計画

学習内容	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
有線通信	○	○	○	○						
無線通信				○	○	○				
通信関連法規				○		○				
画像通信							○	○	○	
通信装置の入出力機器									○	○

◎年間学習計画

[illegible]